

新潟柳都 中学校区（日光山小，新潟柳都中）

【目指す子どもの姿】

仲間や地域とともに高め合いながら、
未来を切り拓く下町の子

〈「目指す子どもの姿」の設定の仕方〉

校長指導のもと、両校の教育目標や学校評価、職員研修、地域との対話から教頭同士が話し合い目指す姿を決定した。その際、以下の視点で協議した。

1 地域の特性の理解

4つの小学校・2つの中学校が統合により拡大した当中学校区は、港町として栄え、文化や地形は個性的である。現在は高齢化が急速に進み、子どもの数の減少が著しい。また、4つのコミュニティ協議会が存在し、各コミュニティ協議会が個性を発揮しながら地域の活性化を目指している。どのコミュニティ協議会も子どもたちは地域の大切な一員であり、地域を活性化する大切な担い手であるという認識を強くもっている。地域住民は、子どもたちが次世代の担い手として、地域を理解し、地域に誇りを持ち、地域社会に貢献できることを切望している。

2 子どもたちの良さと学校課題の確認

高齢者や地域に温かく見守られながら暮らす家庭が多く、素直でお互いの良さを尊重できる優しい子どもが多いことは当中学校区の子どもの良さである。一方、お互いの気持ちや意見を適切にやり取りしたり、個性を十分に発揮しながら協働したりする社会性の育成を重点的に取り組む必要があると考えた。また、そのことは小中の各教育目標の実現にもつながることを確認した。

3 文献より

国立教育政策研究所生徒指導リーフによれば、社会性の育成には、その基盤であるこどもの「自己有用感」の育成が重要であるとしている。また、その効果的な方策として「異年齢交流活動」が提唱されている。当学区では、「異年齢」の対象を校内の「異学年（ピアサポート）」と、「地域住民」との交流・発信や貢献を基軸にすることで、地域課題と学校課題の解決が図られると考えた。

4 上記1，2，3より

異年齢（異学年を含めた仲間や地域住民等）同士が尊重し合い協働する中で課題解決を図ることにより、自己有用感や社会性を高め、未来を切り拓いていける子どもの育成を目指すこととした。

※ 目指す姿は、年度当初の職員会議や研修などで職員への周知を図っている。

① 「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」における小中一貫した教育としての取組

別紙参照：「新潟柳都中学校区における生活科・総合的な学習の時間を主とする計画」

〈「身に付けさせたい資質能力」とその実現に関わる方法について〉

【身に付けさせたい資質能力】

- 課題を発見，設定し，追求する能力
- 課題解決に向けて意欲的に追求し，自己の生き方を考える能力
- 友達と協同して課題解決するためのコミュニケーション能力
- 積極的に地域社会とかかわり，貢献・発信する能力

【その実現に関わる方法】

1 小中の総合学習の中で，一貫した教育が展開できる単元の決定

小中の総合学習の中にはいくつかの単元や学習内容がある。総合学習担当と両教頭で協議し，その中で，小中一貫した教育が展開できる「地域で学び・学びを発信・地域に貢献」する単元において，小中一貫した教育を位置付けることとした。

2 小中両校の総合学習担当者の会議において，一貫した教育についての協議

「地域」素材の単元の中で，目指す子どもの姿や学習内容，学習活動において，資質能力を意識しながら一貫性のある教育になるよう小中の総合担当者同士で協議した。

3 小中各校の総合部会で全体計画・指導計画等の検討

小中で一貫する総合学習をもとに，各小中の総合部会で全体計画・指導計画を検討した。これにより，小中一貫した教育を目指しながら，両校の総合学習全体の目標や単元配列等を確認した。

4 教育計画と学校評価を通し，各校の職員への周知

上記3をもとに，年度当初の職員会議において，小中一貫した総合学習について共通理解を図ったり，検討したりした。また，実践を終えた年度末には，学校評価から修正点や改善策を各部会で検討した。

5 小中両校の総合学習担当者会議において，両校の年度末反省を持ち寄った協議

両校の総合部会で出された意見をもとに，次年度の小中一貫した総合学習についての改善案を検討する。その後は，上記3→4→5を繰り返す。

② 「9年間を見通した学習の仕方」の取組

「日和山小・新潟柳都中学習スタンダード」

〈授業の在り方〉

- ① 課題とまとめのある授業（課題は赤，まとめは青で囲む）
- ② 主体的・対話的な学びのある授業（話し合う必然がある場面設定）
- ③ 振り返りのある授業（解決した学び方・獲得した知識や技能・情意）
- ④ 板書の工夫

〈児童・生徒に身に付けさせたい事柄〉

- ① 「話す」「聞く」スキル
- ② 学びが見えるノート
- ③ 授業と関連のある家庭学習

〈「9年間を見通した学習の仕方」の設定・運用の仕方〉

1 小中両校の学習部担当者会議において学習スタンダードの作成

両校の学習指導部の取組を持ち寄り、学習の仕方に関する共通事項や系統性を持たせて指導する内容を確認した。それらを「日如山小・新潟柳都中学学習スタンダード」とした。

2 小中各校の学習部会（研推）で全体計画・指導計画等の検討

「学習スタンダード」をもとに、両校での学習指導に関する計画を立案した。

3 教育計画と学校評価を通し、各校の職員への周知

上記2をもとに、年度当初の職員会議において、「学習スタンダード」について共通理解を図ったり、検討したりした。また、実践を終えた年度末には、学校評価から修正点や改善策を各部会で検討した。

4 小中両校の学習担当者（研究主任）会議において、両校の年度末反省を持ち寄った協議

両校の総合部会で出された意見をもとに、次年度の学習指導についての改善案を検討する。その後は、上記3→4→5を繰り返す。

※ 今後の取組について

まず、**学校評価や学習・生活意識調査結果を活用**して、職員の学習スタンダードを徹底する意識の向上を図れないか検討をする。それらをもとに、校内で指導を強化したり、**保護者や地域にも示したり**していく。また、**小中でお互いに授業を参観**するなどし、意識向上を図ることができないか検討する。

③ 「小中一貫合同研修会」の取組

「小中一貫合同研修会」のねらいや次第・研修内容の概略

○今後、新潟柳都中学校区合同研修会の開催について検討する。

○現在のところ多忙化解消のため、次のような周知の仕方を考えている。

- (1) 小学校および中学校の教頭と総合的な学習の時間主任との4名で、目指す子どもの姿や各学年の学習内容を検討する。
- (2) 各校の運営委員会や職員会議を経て、全職員の共通理解を図る。
- (3) 修正点や改善点に関しては、再度、①の4名で検討する。

〈「小中一貫合同研修会」の実施方法の工夫〉

様々な方面から小中合同の研修会が要請されている。両校管理職が検討をし、目的と方法を明確にした上で開催していくこととする。その際、職員の必要感を引き出すことに留意したい。

④ 「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の取組

「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」のねらいやメンバー・次第・協議内容の概略

○ 3月に開催を予定している。

<メンバー>

- ・小中の校長，教頭，教務主任，総合的な学習の時間主任
- ・4つのコミュニティ協議会の会長，事務局等

<協議内容>

- ・学校の取組の説明
- ・小中一貫した教育の説明
- ・小・中・地域合同の活動カレンダーづくり＝協力体制づくり

〈「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の実施方法の工夫〉

- ・学校が地域と活動しやすくなるように，小・中・地域の活動が一覧となったカレンダーを作成する。
- ・目指す子どもの姿の設定につながるように，地域の代表としての，期待する子ども像をお聞きする。
- ・地域との対話は，様々な所から行うように指示されている。**小中一貫した教育だけでなく，他の議題等にも関連性を持たせて意見を頂く。**

【目指す子どもの姿】

仲間や地域とともに高め合いながら，未来を切り拓く下町の子



【「目指す子どもの姿」を実現するために，生活科・総合的な学習の時間で行う教育活動】

【身に付けさせたい資質・能力】
 ○課題を発見，設定し，追求する能力
 ○課題解決に向けて意欲的に追求し，自己の生き方を考える能力
 ○友達と協同して課題解決するためのコミュニケーション能力
 ○積極的に地域社会とかかわり，貢献・発信する能力

【9年間を見通した学習の仕方】

<授業の在り方>
 ①課題とまとめのある授業（課題は赤，まとめは青で囲む）
 ②主体的・対話的な学びのある授業（話し合う必然がある場面設定）
 ③振り返りのある授業（解決した学び方・獲得した知識や技能・情意）
 ④板書の工夫

<児童・生徒に身に付けさせたい事柄>
 ①「話す」「聞く」スキル
 ②学びが見えるノート
 ③授業と関連のある家庭学習

【独自プログラム】

<特別活動を窓にした生徒指導>
 1 ビアサポート
 2 行事等において，目指す姿と振り返りの場を設定する。
 3 ファシリテーションなど，話し合いの場を設定したり，スキルを身につけさせる。

新潟柳都中学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
3	○商人体験（修学旅行） ○早川堀再生祭り参画 ・まち歩きガイド ・高齢者・子どもたちとの交流活動 ○自主的な地域活動参画	地域に貢献 ○地元の特産品を修学旅行先で販売するために，商品の良さと発信について考えたり，工夫したりする。 ○地元活性化のために，地域の祭りへの参画や貢献の仕方を考えたり，実践を通して自己の在り方を考える。	○主体的に地域の方々と関わったり，貢献したりし，地域を持続させたり創造したりすることの大切さを感じる。
2	○職場体験 ○地域と関西の比較（修学旅行事前学習）	地域に学ぶ ○職業体験を通し，地域の方々の職業や地域への考え方に触れ，自己の職業観や地域に対する考えをもつ。 ○北前船や関西の町づくりについて調査することを通して，地域の歴史や文化的な良さを認識し，誇りをもつ。	○地域の方々との対話を通し，地域の良さを知ると共に，課題解決の必要性を確認する。
1	○フィールドワーク ○七夕飾り	地域を学ぶ ○地域の成り立ちや課題について知る。 ○小学生と協力し，地域商店街の七夕飾りを作成したり，飾り付けたりし，貢献することの必要感をもつ。	○小学校の学びをもとに，自分たちの興味関心に基づき，さらなる地域への理解を深める。

日和山小学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
6	○大好きにいがた体験 「下町とともに生きる」	○下町の商店街、様々な職業に携わる人々や西海岸を守るために努力される人々等、地域を支えてくださっている方々について調べ、自分の生き方について考える。	○地域の発展に貢献している方々に出会わせる。 ○貢献している方々の生き方に着目させる。 ○自分の生き方や地域への貢献の仕方を考えさせる。
5	○大好きにいがた体験 「共に生きる」	○地域の高齢者の実態を知る。 ○地域の高齢者のために自分ができることを、地域の方と一緒に考える。 ○学校の茶の間を開催し、自分が考えた活動を実践する。 ○振り返りを行い、自分ができることを再考する。	○地域の高齢者と触れ合わせる。 ○下町のよさや課題に着目させる。 ○自分ができることを考えさせる。
4	○大好きにいがた体験 「港町下町」	○地域にある自然や、港の歴史や働き、役割等について調べ、これまでの地域の発展や、これからの下町について考える。	○地域にあるものの歴史や役割等を調べさせる。 ○下町の「これまで」と「これから」を考えさせる。 ○下町への愛着をもたせる。
3	○大好きにいがた体験 「日和山お宝たんけんたい ～下町の神社・お寺を調べよう～」	○地域にある神社・寺について調べる。また、なぜ多いかについて考える。 ○地域のお宝を見つけて、カルタにして紹介する。	○地域にある建物や施設、名産品など、関心のあるものを調べさせる。 ○地域のよさを発見させたり再確認させたりする。 ○下町に親しみをもたせる。
2	○「下町たんけん」	○地域にある商店街や公共施設等について、どんなものがあるのか、どんな人がいるのか等を調べる。	○町たんけんをさせる。 ○地域にあるお店や施設などを調べさせる。 ○下町の伝統や人情に気付かせる。
1	○「わかしのあそび」	○地域のおじいさんやおばあさんを学校に招待し、昔の遊びを教わる。	○地域のおじいさんやおばあさんを学校に招待する。 ○おじいさんやおばあさんに積極的にかかわらせる。 ○おじいさんやおばあさんの温かさや遊びの上手さに気付かせる。